



# 諏訪森だより



駅舎・まち・ひとびと

巻頭言  
まちを考えるということ、子どもたちとの協働がもたらすもの

末吉正典

以前、「浜寺諏訪森を考える会」という名称について、考えるだけでは何も変わらないう、という懸念の声がありました。しかし過去に地域の問題を自治会で協議することはあっても、自主的にまちを良くしようとすることはなく、地域のことは行政に頼りがちで、住民が主体的に公共を考え行動する仕組みはありませんでした。今は「浜寺諏訪森を考える会」がその受け皿になっていてと思います。まず問題意識をもって考えないと何も始まりません。

近年の地方分権と並行して、まちづくり活動に取り組む地域が増えています。一方でわが国は経済発展と共に企業社会となり、多くの優秀な人材が地元を離れました。今、地方分権でモノやカネや権限を託されても、それを効果的に運用しまちづくりを進める人材が不足しているのが現状です。地域の活性化には、行政だけではなく市町村のエネルギーが必要ですが、経済至上主義となったわ

が国では、多くは郷里の発展よりも企業収益を優先せざるを得ません。さらに構造的な不況が追い打ちをかけ、その結果が大都市一極集中と地方の過疎化です。地域再生を担うマンパワーの不足が地域では慢性化し、実際に学校PTAや子ども会、自治会でさえ人手不足が課題となつています。

今後の日本は少子高齢化と人口減少により、経済成長に限りがあるのは明らかです。豊かさをモノに求めるのではなく、居住地のヒトのつながりやココロの豊かさに重点を置き、若い時から企業人であると同時に地域人としての生き方を充実させるのも一つの生き方です。世代を超えてまちづくりに関心を持ち続ける地域は生活基盤が強くなり、国が進める地域再生にも応えられます。さらに地域が活性化すれば生活が充実し、地域力が上がれば結果としてその集合体である国も繁栄するのです。

さて地域の人材を増やすには、経済団体や企業の地域に対する意識改革と協力が重要です。また地域では、まちづくり団体の立ち上げや学校での住民と連携した地域教育の定着による、住民の意識改革が見込まれます。本校区でも

浜寺小学校六年生がまちづくりをテーマとした総合的な学習を経験し子どもたちの地域の関心が高まり、まちづくりにNPO法人との連携も見られます。子どもたちは生まれ育つ地域の歴史や現状を知り、課題解決などの考えをまとめて発表します。その過程で大人と触れあい、コミュニケーションを育み、言語力を養い、地域に関心と誇りを持ち、社会に必要な自分で考えて行動する習慣が身に付きま

す。そして将来の地域を支える人材、社会で活躍できる人材に育つでしょう。

一方で大人は子どもとの関わりで学校教育や家庭教育、地域の抱える問題点が見えてきます。さらに子どもたちからパワーをもらい、主体的にまちづくりを考えることは、人生を見据えたキャリアを考えるきっかけになります。このように将来を担う子どもたちと共にまちづくりを考え実践する事で、地域に世代を超えた人のつながりが生まれま

## NPO法人浜寺諏訪森を考える会の日誌

1. 11/25 第9回 理事会開催
2. 12/7 園川さんのワークベンチ開催
3. 12/13 クリスマスイルミネーション開催
4. 1/13 第10回 理事会開催

## 平成26年事業年度の決算と次年度の事業計画

当法人は平成26年4月1日に発足致しました。平成27年3月31日で第1期が終了致します。会員の皆様には会の設立の趣旨をご理解頂きその運営にご協力頂きありがとうございます。決算内容は4月末にお届けいたしますが、次年度の計画に関するご希望がございましたら、予めお知らせ頂きたいと存じます。

理事長 長谷川琢也

# 南海本線(堺市)連続立体交差事業

## 新しい駅前の道路交通について考えてみましょう (その2)

前回は新しく出来る駅前の交通について問題が予想されるというお話を書きました。今回はもう少し具体的に考えてみることにします。

### 東西中央通路の広さ

現状は踏切になって電車が通っている場所が東西中央通路になります。高架下に、駅前施設としてどのような建物が作られるのかは、まだ判りませんが、中央通路の所の南北の柱の間隔は27.5mあります。

南側は改札口の手前になり、改札口はこの柱から15mほど先に出来ますので、改札の前にも広い空間が出来ます。北側は高架下を利用して店などを配置することになります。そのような設備が柱よりも前に出てくるのかどうかはわかりませんが、5m程度はみ出してきても、まだ中央通路の中は南北に20m以上あることになります。

駅の東側には歩道を含む道路幅6mの側道が出来ますので、商店街の通路はこの側道につながります。側道の歩道は東側にあり、西側は歩道が無く高架下になり駅の外壁が立ち上がります。中央通路に入る所は、南北が駅の外壁で仕切られるようになるはずですが。

### 中央通路の通行

中央通路は歩行者と自転車などが通れますが、自動車は通れません。現在の踏切は、人と自転車の他に自動車を通りますので大変危険です。特に北から側道を通して来て右折して踏切を渡る車が多いので、電車が通過した後などは非常に危険です。

新しい中央通路にはそのような危険はありませんが、道幅が広がってかえって自転車と人の接触事故

が多くなるのでは無いかと危惧されます。

中央通路の人の流れは時間により変わります。朝は通勤通学の人の流れが改札口に向かいます。駐輪場の場所が決まっていますので不確定要素がありますが、東西から改札口への流れと、西から東への小学生の通学の流れが出来ます。昼間は買い物客が多いので、特にコーヨーへの出入りが多くなるはずですが。夕方からは通勤、通学の帰宅の流れが増えます。下り線からの人の流れが今とは変わりますが、改札から出て中央通路を東西に分かれて流れます。

自転車については、他の駅では中央通路の通行を制限しているところが多いようです。湊駅の北側通路は完全に通行禁止です。石津川でも、自転車は南北にある道路を通るようになっていました。天下茶屋とか岸和田駅には広い中央通路があります。これらの駅は原則として自転車は通行禁止で、降りて押して通るようになっていました。

交通を取り締まる立場のお役所では、自転車を降りて押すことを奨励しますが、実際に高齢者が買い物荷物をかごに入れた自転車を、押して動かすということは、かえって転倒の原因になりますので、こういう制度は止めた方が良いでしょうと思います。

西に向かう駅前道路の歩道脇に、自転車通行帯が出来ます。自転車は左側通行ですから、中央通路から国道へ行く時は、南側の自転車通行帯を通ります。逆に国道から駅に向かう自転車はコーヨーの前を通るようになります。自転車に乗る人たちが、このような交通規則を守らないと事故につながります。

## 連続立体交差事業の現場から

用地買収は最後の段階にきています。線路の西側は、ほぼ全部立ち退きも完了しています。東側は駅前近の立ち退きが最終段階にきました。駅前の角の大和屋さんも、1月15日に店を閉められました。駅前商店街が出来た頃からの老舗であり、お名残惜しい限りです。

駅の西南では南海電鉄の工事現場事務所の建設が行われています。現在泉大津にある事務所がこちらに移転してくる予定で、高石から石津川までの区間の工事を統括する事務所になります。高石から



羽衣間の区間の工事は随分進んで、現在は羽衣駅の下り線プラットフォームの建設がたけなわです。駅の施設が完成すれば下り線は高架上に移行します。

諏訪ノ森駅では、昨年11月からプラットフォームの中を切り取る工事が行われています。1月15日現在では、プラットフォームは後ろが切り取られて、外壁と屋根の工事が進行しています。月末にはこの区間の工事は完成して、北側の区間に移ります。写真は、大和屋さん、工事事務所、駅の工事。

2014.10.26 まちづくり部会企画

## 旧吹田村のまちづくり見学会

## 旧吹田村

吹田のイメージは、アサヒビールの工場があるまち、吹田操車場があったまち、というのが一昔前の話で、その後千里ニュータウンが出来て、万博が開催され、その跡地が記念公園になっているのが、今の吹田です。

もっと古い話では、旧石器時代から人が住んでいた所で、縄文時代、弥生時代の遺跡があり、古墳時代には須恵器の生産地であったと言われています。

今度見学した旧吹田村というのは、もう少し後の時代ですが、この場所は大阪と京の都との交通の要所になっていました。陸路は亀岡街道と吹田街道が交わるところで、吹田街道は、能勢街道から西国街道につながっています。また、水路では奈良時代に和氣清麻呂が神崎川を淀川につながぐ工事を行ったことで、陸路と水路の接点となった吹田村が西国と京を結ぶ交通の要所となりました。

見学会の一行は9名で、新今宮でJRに乗り変えて吹田駅で下車しました。市役所に近いJRの駅ですが、何となくがらんとした駅前たたずまいです。それでも、そこから神崎川の方に広い駅前通が通って居て、商店も並んでいます。JRの線路と川にはさまれた地区が旧吹田村で、その駅前通を少し行くと高浜神社の前に出ました。

## 浜屋敷（歴史文化まちづくりセンター）

神社の前を通り過ぎたその先に、浜屋敷があります。この場所は江戸時代の庄屋屋敷でした。平成12年に所有者から建物を寄贈された吹田市が、3年かけて全面改修を行い基礎も作り直して、吹田歴史文化まちづくりセンターとして発足させました。

施設は主屋と蔵棟に分かれ、その間に中庭があります。母屋は座敷、仏間、茶の間など九つの部屋に分かれ、土間にはへっついなどが復元されています。蔵棟にはギャラリー兼音楽室と資料室があり、資料室では吹田の歴史などの展示やビデオによる説明が視聴出来ます。運営はNPO



法人吹田歴史文化まちづくり協会に委託されています。

## 吹田の渡し

浜屋敷を出て100メートルほど歩くと安威川べりに出ます。このあたりは、江戸時代にはまだ神崎川だったそうで、亀岡街道が渡る船渡しがありました。大坂から京都に向かう交通の要所であり、江戸末期には5隻の渡し船が運航していたそうです。明治になって高浜橋が架けられて渡しは廃止されました。



## 旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）

渡しから離れて駅の方に戻ると、広いお屋敷があります。西尾家は江戸時代に上皇の所領地の庄屋を務めていたお家柄で、その子孫が明治から昭和にかけてここに建築した



のが西尾家住宅です。平成21年に国の重要文化財に指定されています。

この資産は相続税として物納され、現在は近畿財務局が所有し、管理を吹田市に委託しているそうです。このような管理形態になったのは地元で「旧西尾邸保存活用会」(旧庄屋屋敷保存活用会)が発足して4万人の署名を集めた結果です。この施設の管理費用は年間3,000万円ほどで、その大部分は公的機関が負担しています。吹田市では定期的に保存活用検討会議を開催して運営についての意見集約を行っています。

お屋敷の敷地面積は1400坪ほどあり、150坪の母屋の他に離れや茶室があり、和室の他に洋間も作られています。設計者は一族の武田五一です。また、昭和初期に欧州で活躍した音楽家貴志康一の母が西尾家の娘であり、彼はこの家で生まれたと伝えられています。

まちづくり部会ではこのような見学会を準備します。普段目に付かない場所にご案内しますので、ふるってご参加下さい。

## 2014年 クリスマスイルミネーションを開催しました

12月13日(土)に恒例のクリスマスイルミネーションを開催しました。例年は二日間の開催でしたが、今年は1日に集中して開催することにしました。

### 開催場所

2013年は駅前の工事の関係で、今までの場所を離れて北野耳鼻咽喉科前で開催しました。2014年は、元のコーヨー横の用地が堺市により接収され、一時的に空き地になっていましたので、イベント会場としての利用に適していました。以前は、ここに自転車置き場があり、何かと使い勝手が悪かったのですが、今年はその心配も無くなりました。

### 幼稚園と保育園のご協力

例年通り、あいあい浜寺中央保育園、諏訪森幼稚園、浜寺太陽幼稚園、船尾幼稚園の園児のパネル制作作品を展示しました。どのパネルも、子ども達の自由闊達な芸術性が踊っていました。



### アーティストの参画

今年の新機軸は地元のアーティスト園川絢也さん

が、地元子ども達と一緒に、アート作品を作り上げるというものです。事前に子ども達に集まって頂いて、ワークショップを開催し、思い思いの作品を作りました。その前に、NPOの会員さん方にも童心に戻って作品を作って貰いました。

イルミネーション当日は、それらの作品を務ビル1階に展示し、その作品に囲まれながら、当日の参加者が自由に作品を



作りしました。浜寺公園の松の枝や松かさなどを使ってアクリル絵の具で色を付けたり、その絵の具がそのまま網状につながったり、変幻自在で見たこともない芸術作品ができあがりました。

園川さんは大阪芸大在学中に堺市展で新人賞を受賞し、近畿各地で空間デザイン展を開催されている諏訪森在住のアーティストです。

地元の芸術家といえば、中尾克己さんのクリスマスコンサートも、おなじみの熱演で寒さを吹き飛ばして頂きました。ありがとうございました。

## 浜寺小学校のいきいき発表会 (三光会館)

浜寺小学校の6年生が今年度も諏訪森のまちについての学習をしています。今年は「浜寺観光案内所をひらこう」という主題を掲げています。

子ども達が自分達でテーマを見つけて、分担してまちの中に出かけて、見たり聞いたりして、古いまちのことや今のまちの出来事などを探求しています。

学校で学んだことを自分達で話し合うだけでは無く、まちの人たちにも聞いて貰い、その成果を共有したいという願いがあります。発表会は次の日程で開催されますので、できるだけ多くの方が聞いてあげてください。大人も知らないまちの話も聞くことが出来ます。

6年生全員が、7グループに分かれてそれぞれテーマについて発表します。どなたでも自由にお入りいただけますので、お立ち寄り下さい。

## いきいき発表会の日程

場所は三光会館です

1月23日(金)	13:30 駅舎 ステンドグラス	14:45 浜寺の自然 四つのや
1月27日(火)	13:50 歴史 街並み	14:40 商店街
2月3日(火)	13:30 駅舎 ステンドグラス	14:45 浜寺の自然 四つのや
2月6日(金)	13:50 歴史 街並み	14:40 商店街